

これからの伊万里市の学力向上を考える

第51回市教育研究大会が開催

第51回市教育研究大会が12月25日、市民センターで開催されました。これは、本市における教育の充実や発展を目的として、市教育委員会などが毎年開催しているもので、この日は県内の学校関係者約500人が参加しました。

今回は、全国の学力調査で上位にある秋田県大館市城南小学校と福井県坂井市丸岡中学校にそれぞれ派遣された、樋渡正さん（武雄市西川登小学校教諭）と北原成之さん（南

波多中学校教諭）が、『秋田県福井県にみる学力向上の取り組みについて』と題して、学力向上に向けた先進的な取り組みなどについての報告が行われました。

その後行われたシンポジウムでは、『これからの伊万里市の学力向上を考える』をテーマに、これまでの市での取り組みなどが報告されました。また、『授業の充実をさらに図ること』や『家庭学習を授業につなげていくこと』、『小・

中学校の連携が大切であり、市全体がチームとして「共通実践」をしていくこと』が必要であるなどといった意見が出されていました。



↑福井県の先進事例などを報告する北原さん

大川内保育園でお年寄りとお園児が楽しく交流 新春の伝統行事『もぐら打ち』

1月14日、大川内保育園で『もぐら打ち』がありました。もぐら打ちとは、打ち棒で地面を叩きもぐらを追い払い、無病息災や豊作を祈願するものです。同園では、園児がお年寄りとの交流を深めたり、古くから伝わる文化を学んだりすることを目的に、この新春の伝統行事を20年以上前から毎年、大川内青螺老人クラ

ブとともに続けています。

園児たちは、地元のおじいちゃんたちに教えてもらいながら、青竹の先にワラを巻いて、打ち棒40本を作りました。子どもたちは、大きな輪になって「14日の晩なもぐら打ちこなたのうちの栄えるように」酒出すか餅出すか出さねば嫁ごの尻うつぞ」と昔から伝わる口上を唱えながら、

自分の背丈より長い打ち棒で、園庭や近くの畑の地面を元気づけたいに叩きました。



↑難しかったけど、頑張って作りました

郷土の文化財

会いに行ける焼き物⑩

青磁桐文香炉

〜同じ文様の表現方法による対比〜

大川内山では青磁鉢が採掘でき、これが大川内山に藩窯を成立させた要因の一つといわれています。

青磁桐文香炉は、1700〜1740年代に作られた青磁の鍋島焼で、口径6・4寸、底径5・8寸、高さ4・9寸の香炉です。鍋島焼の最盛期の作品で、一見すると何の飾り気もない香炉ですが、器の胴を中央で上下に二分し、それぞれ異なる方法で桐文を描いています。

桐文は、上部が線彫り、下部が白泥で表現されています。このため、上下の文様で陰と陽の対比ができ、観る者に趣深い印象を与えてくれます。



文様は、見えづらいかもしれませんが、その分じっくりと見てみてください。青磁桐文香炉は、伊万里・鍋島ギャラリーで開催中の『鍋島焼十傑と輸出古伊万里の華』展で、2月8日（土）から6月1日（日）まで公開されます。

◆問合先 生涯学習課
(☎) 23 3186

